資　料　５－１

道路事業　再評価

一般国道４５号　南三陸道路

平成２３年　７月２５日
国土交通省　東北地方整備局

事業名	一般国道45号　南三陸道路（みなみさんりく）	事業種別	高規格

事業採択後3年未着工

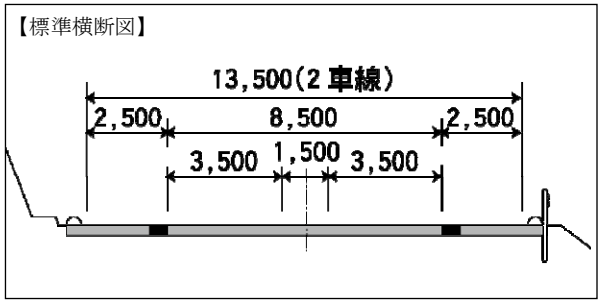
事業の目的

南三陸町は、東北地方太平洋沖地震（H23.3.11）により、壊滅的な被害を受け、唯一の幹線道路である国道45号は、津波災害により、道路が寸断された地域である。

南三陸道路は、津波浸水区域を回避する緊急輸送道路として機能し、三陸沿岸地域の南北軸の幹線交通を担うとともに、高次医療機関への速達性向上等、住民の安心安全を確保するものである。

また、三陸沿岸地域の交流・連携を促進する三陸縦貫自動車道の一部を構成する延長7.2kmの自動車専用道路である。

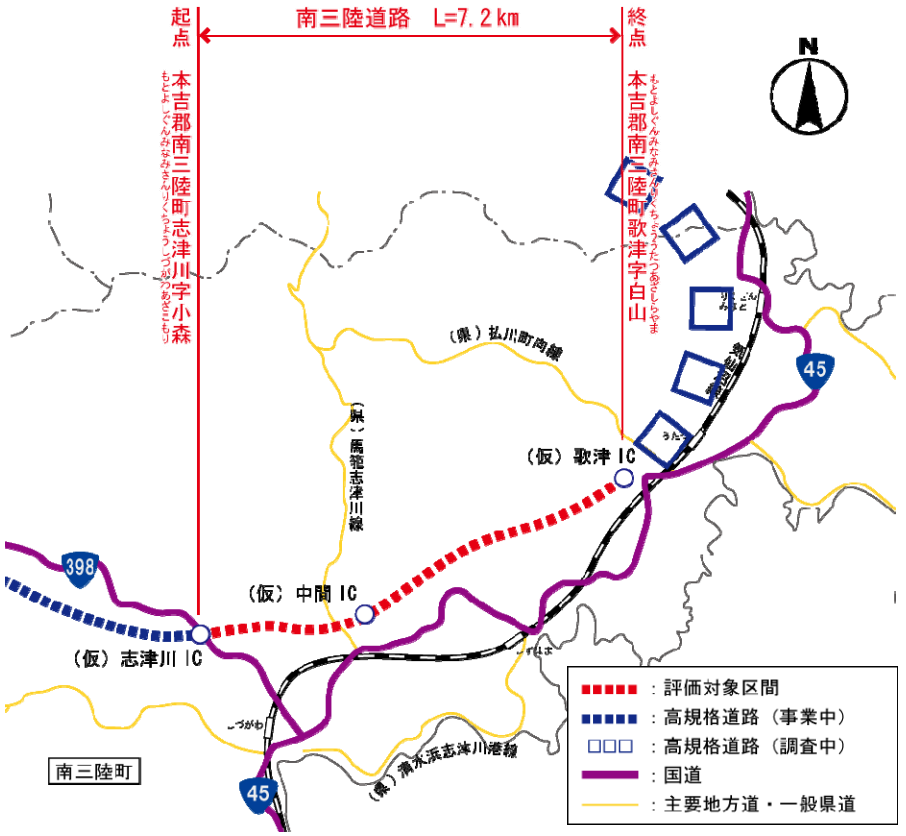




事業の概要

起終点	自：宮城県本吉郡南三陸町志津川（みやぎけんもとよしぐんみなみさんりくちょうしづがわ）字小森（あざこもり） 至：宮城県本吉郡南三陸町歌津（みやぎけんもとよしぐんみなみさんりくちょううたつ）字白山（あざしらやま）		延長 供用済	7．2km － km
道路規格	第1種3級、設計速度80km/h		幅員	W=13．5m
事業化	平成20年度	都市計画決定	－	
用地着手	平成23年度	工事着手	平成23年度	

	全体事業費・進捗率			
	全体事業費（うち用地費）	執行済み額（うち用地費）	全体進捗率（用地費）	H20新規採択（用地費）
完成	238億円（21億円）	10億円（2億円）	4%（10%）	238億円（21億円）
暫定	－	－	－	－



1－①. 地域の状況

高次医療機関へのアクセス性

◆南三陸町歌津地区、気仙沼市本吉地区の一部地域は、石巻赤十字病院または県立大船渡病院（第3次救急医療施設）まで60分以上時間を要し、高次医療施設へのアクセス性が低い。

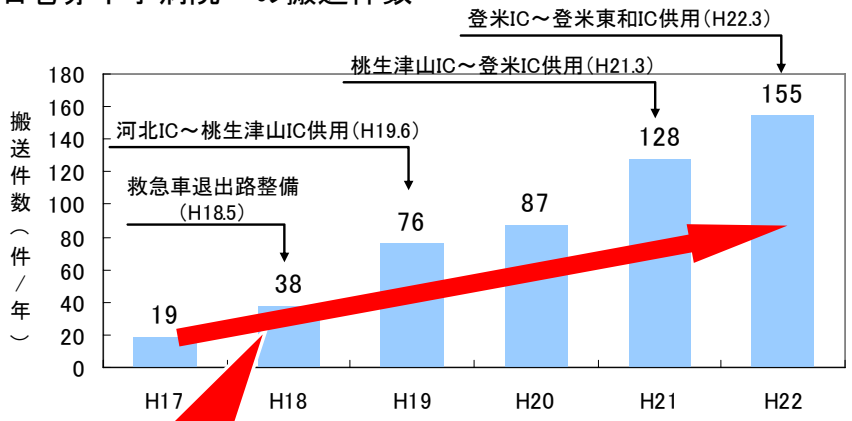
▼3次救急医療60分カバー圏（現況）



南三陸町歌津・気仙沼市本吉地区の一部地域は石巻赤十字病院まで60分以上の時間を要す
※南三陸町・気仙沼市本吉地区の60分圏人口カバー率：49%

※所要時間はH17道路交通センサス旅行速度（河北IC～登米東和IC間は規制速度）を用いて算出

▼南三陸町から石巻赤十字病院への搬送件数



南三陸町から石巻赤十字病院への搬送件数が約8倍

出典：仙台河川国道事務所資料
（気仙沼本吉広域消防ヒアリング）

▼三陸道の救急車退出路（H18.5供用）を利用して石巻赤十字病院に向かう救急車両



1－②. 地域の状況

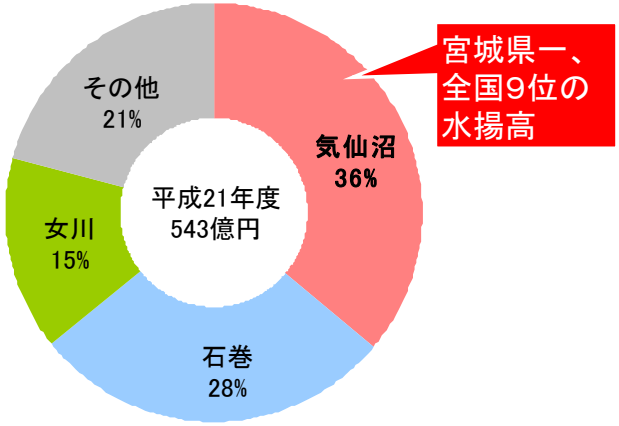
三陸沿岸地域を支える水産業

◆気仙沼市の魚市場は、宮城県一（全国9位）の水揚高を誇り、その金額は196億円に及ぶ。
◆気仙沼港から出荷される「さんま」は遠隔地（京阪神・名古屋）へ出荷される割合が年々高くなっている。
◆そのため、遠隔地へ輸送する際に、品質の低下を招かないように配慮することが求められる。

▼全国水揚漁獲金額ランキング（H21）

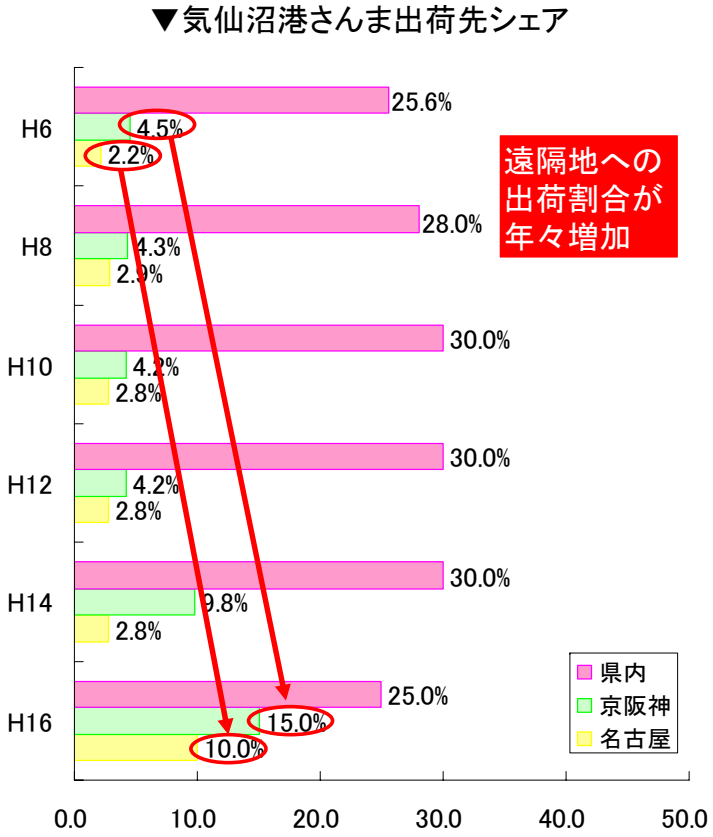
漁港名	（都道府県名）	H21年	
		順位	水揚漁獲額（百万円）
福岡	（福岡）	1	54,149
焼津	（静岡）	2	37,691
三崎	（神奈川）	3	33,995
長崎	（長崎）	4	32,325
根室	（北海道）	5	26,112
銚子	（千葉）	6	23,370
八戸	（青森）	7	21,694
松浦	（長崎）	8	20,224
気仙沼	（宮城）	9	19,606
下関	（山口）	10	18,377

▼宮城県内の漁港別水揚漁獲金額のシェア



出典：水産物水揚統計（H21）

▼気仙沼港さんま出荷先シェア



▼気仙沼市から関東方面への輸送ルート



■気仙沼漁業組合ヒアリング結果

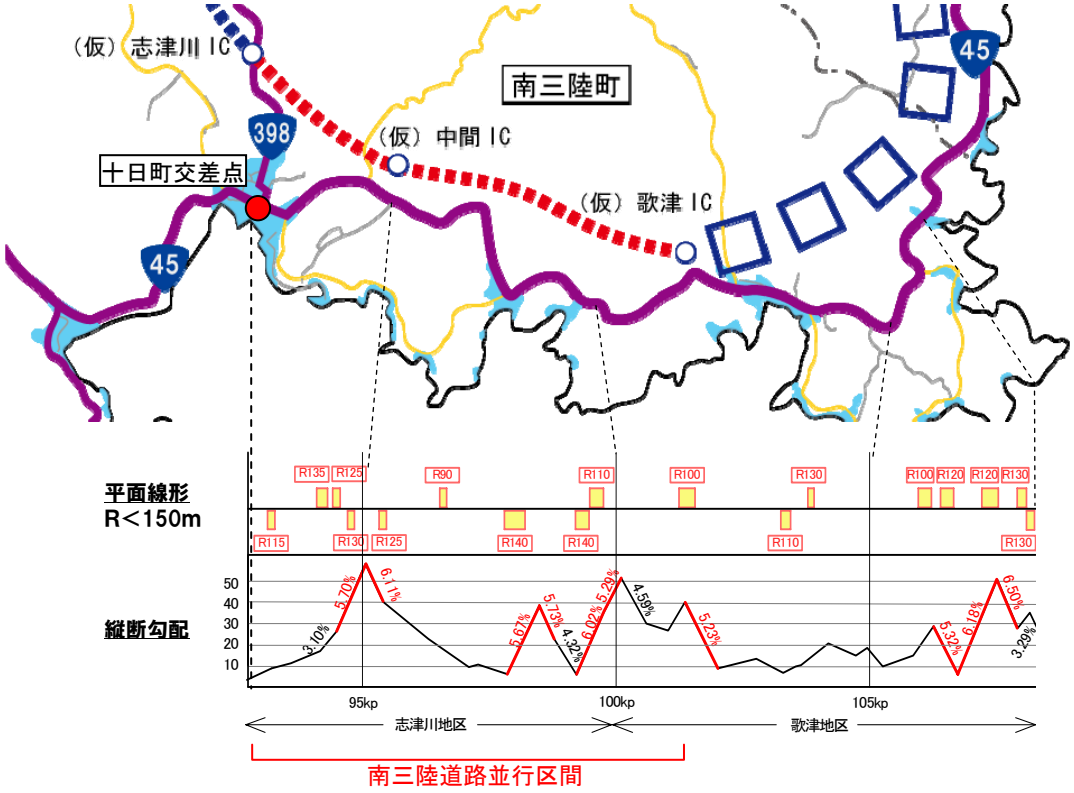
関東地方に出荷する際に道路混雑などにより2時間遅れて、**市場価格が最大3割低下**したことも。

2－①. 道路交通の状況

道路線形不良箇所・津波浸水区域が存在

◆南三陸道路と並行する国道45号は、線形不良区間（曲線半径R＜150m：9箇所、縦断勾配I＞5%区間：約2.6km）を抱えている。
◆南三陸町内の国道45号の約26%（6.5km）が津波浸水想定区域となっている。

▼国道45号の線形不良区間





：評価対象区間
：高規格道路（事業中）
：高規格道路（調査中）
：国道
：主要地方道・県道
：その他道路
：津波浸水予測区域
（第３次宮城県地震被害想定調査（H16.3））

▼国道45号の急カーブ・急勾配区間

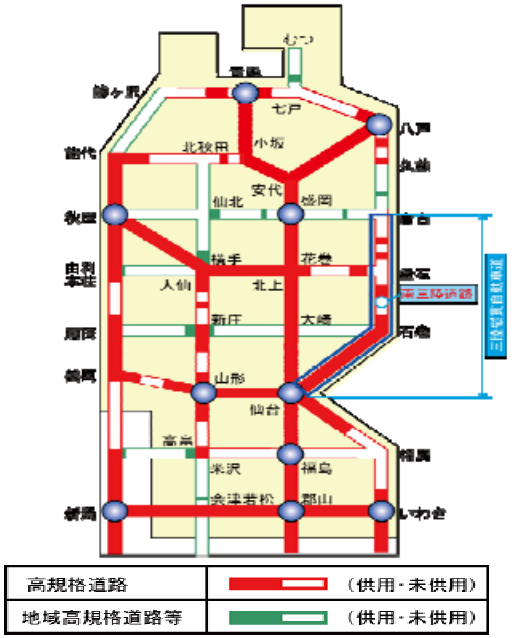


●志津川地区～歌津地区の現道区間は、**Ｒ１５０以下の箇所が多く、人体への悪影響を及ぼす可能性が高い。**
●Ｒ150以下の場合、加速度の変化が激しく、**最高血圧の変動割合（通常値との差）が10%以上**となる危険性がある。
●**急カーブ・急勾配が連続する区間**では、救急搬送時に同乗している家族、医師などの**健常者も車酔いをして手当を行う**場合がある。
（H17高規格道路を活用した医療支援検討委員会より）

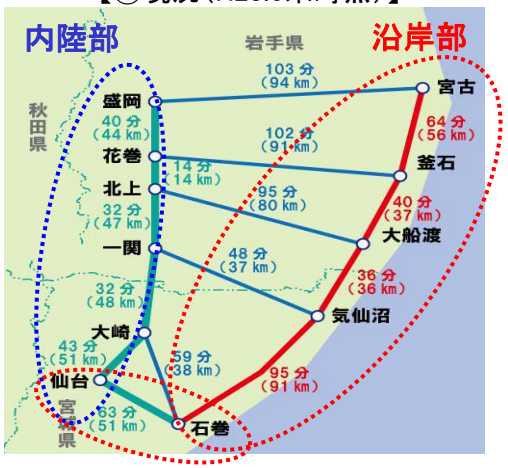
2－②. 道路交通の状況

三陸縦貫自動車道の整備の遅れ

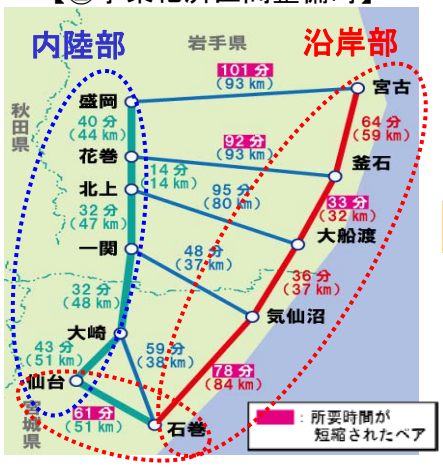
◆三陸縦貫自動車道（仙台～宮古間）の整備率は約50%であり、全国・東北の整備率に比べ約2割低い。
◆そのため、三陸沿岸地域は、都市間の所要時間が長く、内陸部の都市間の所要時間との格差が大きい。



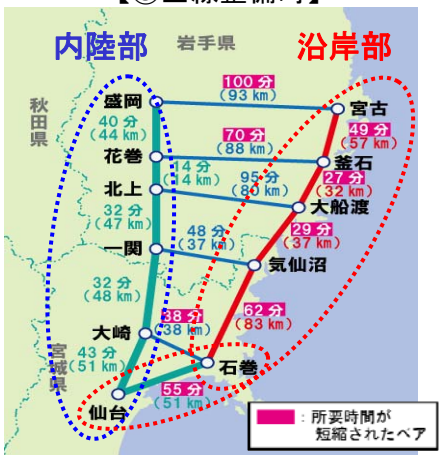
▼三陸道の有無による都市間距離と所要時間の変化



（三陸道）供用済区間延長：113km
【整備率：約50%】



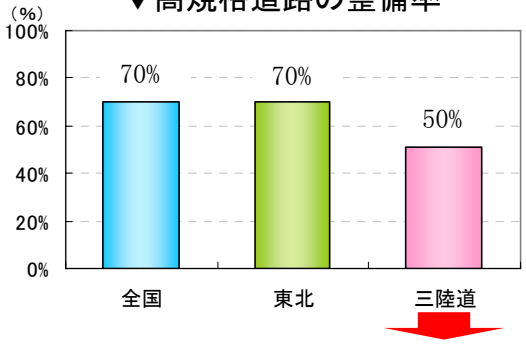
（三陸道）供用済区間延長：113km
+事業化済区間延長：55km
=168km【整備率：76%】



（三陸道）供用済区間延長：113km
+事業化済区間延長：55km
+基本計画区間延長：56km
=224km【整備率：100%】

出典：道路時刻表’07～’08
※未整備区間は高規格（暫定）70km/h、高規格（完成）80～100km/h、地高60km/hとして算定

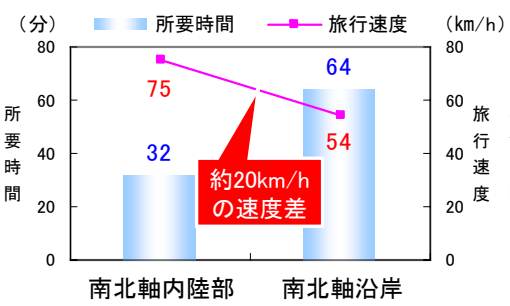
▼高規格道路の整備率

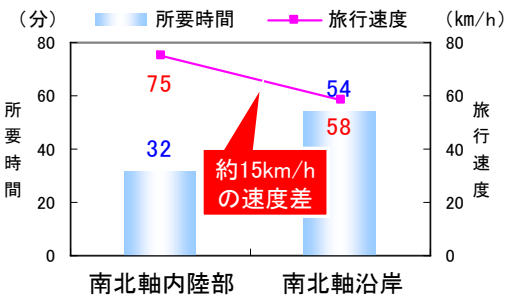


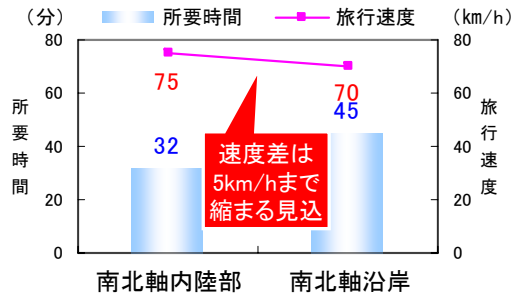
整備率の低い三陸沿岸地域

出典：国土交通省資料（H23.4）

▼都市間所要時間と平均旅行速度







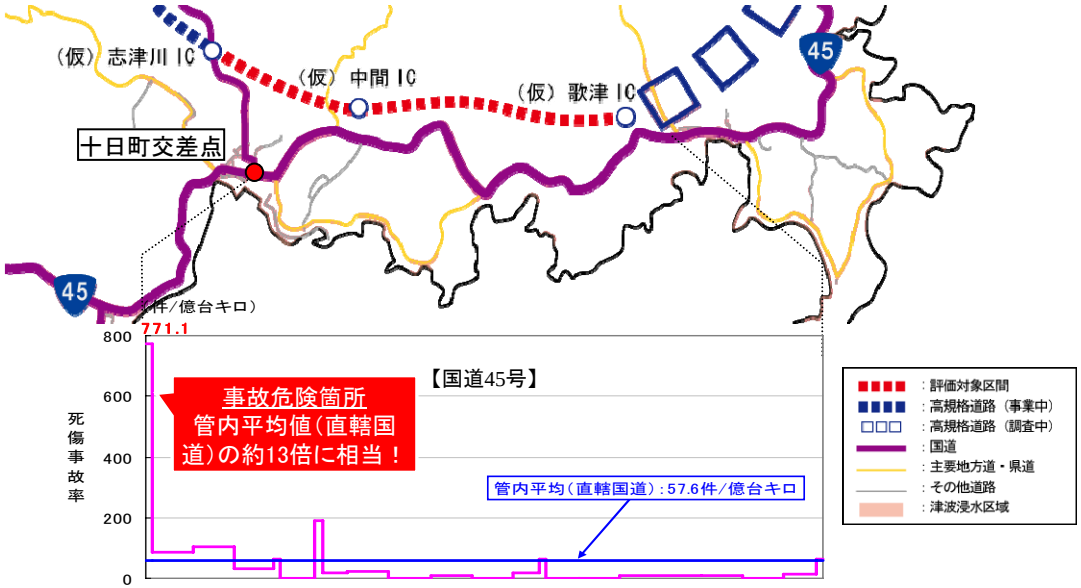
2－③. 道路交通の状況

事故危険箇所の存在

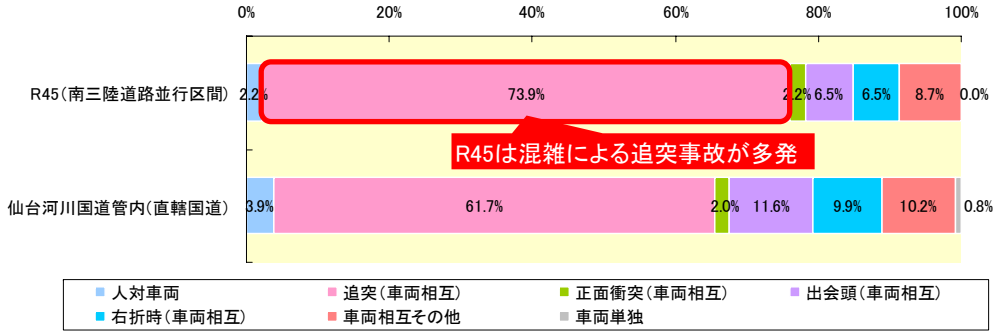
◆国道45号と398号の分岐となる十日町交差点は、H18～21の4年間で10件の事故が発生し、死傷事故率は管内平均値の約13倍に相当する771.1件/億台キロとなっている。

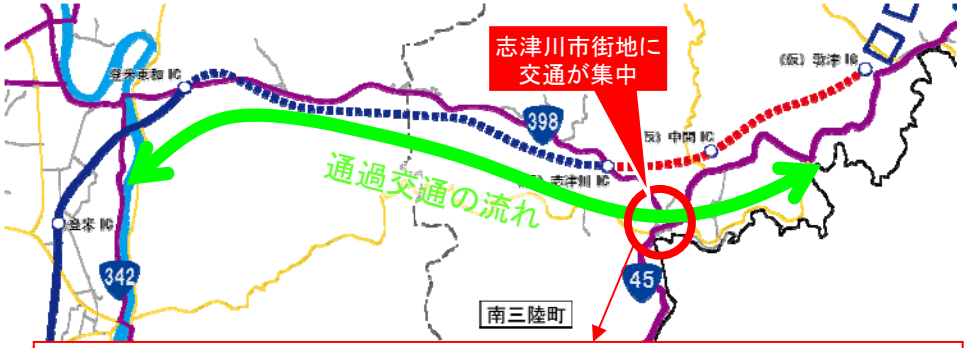
◆登米志津川道路は登米東和ICまで開通しており、通過交通は、信号交差点が多くクランク部の多い志津川市街地部に交通が集中し、国道45号をはじめ、混雑による追突事故が多発している。

▼国道45号の区間別死傷事故率（H18-21）　出典：ITARDAデータ（H18-21）

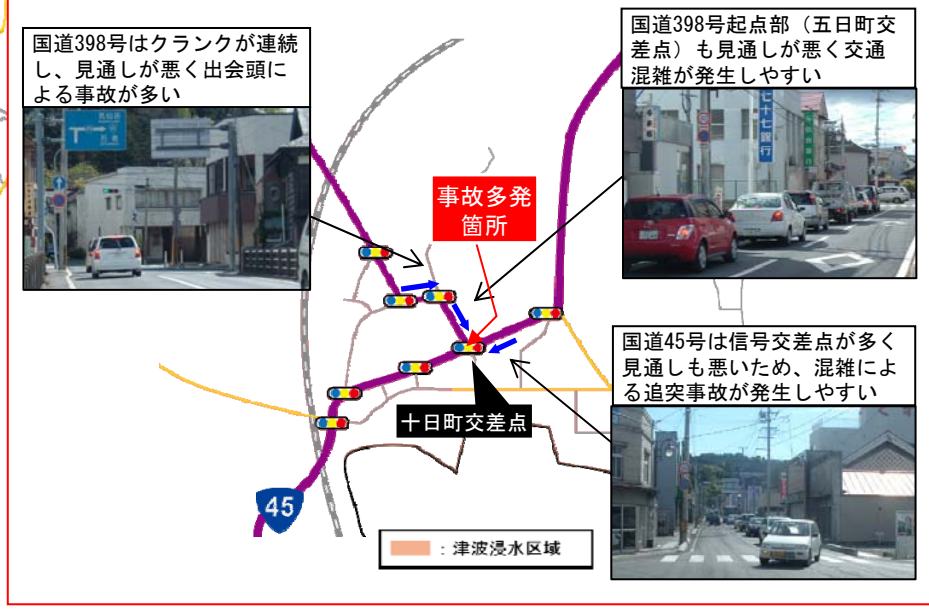


▼事故類型（H18-21）　出典：ITARDAデータ（H18-21）





▼南三陸町志津川地区の交通状況（被災前）



3. 地域及び道路の課題とその原因

	課題	原因	政策目標
地域について	【救急医療体制】 ・南三陸町歌津地区、気仙沼市本吉地区から高次医療機関まで60分以上時間を要し、アクセス性が低い	【救急医療体制】 ・高次医療機関へのアクセス性確保が不十分	①津波被害を回避し命を守る道路整備
	【産業振興】 ・水産物の品質向上を図るには都市部への輸送時間の短縮が必要 （気仙沼～東京間：約7時間）	【産業振興】 ・主な出荷先となる都市部へのアクセス性確保が不十分	
道路について	【防災・迂回】 ・津波被害時に地域住民の命を守れるルートを確保する道路構造が必要	【防災・迂回】 ・津波災害で孤立した地域を救う避難路が確保されていない ・津波被害を回避できる位置に幹線道路が整備されていない ・代替路がない脆弱なネットワーク	②高規格道路ネットワークの形成
	【道路現況】 ・三陸縦貫自動車道の整備が遅れ（整備率：東北平均70%、三陸道約50%）、津波災害時の迂回路が確保されていない	【道路現況】 ・ミッシングリンクが存在 ・代替路がない脆弱なネットワーク	③高規格道路整備による交通の分散化
	【交通状況】 ・事故危険箇所が存在 （事故率：771.1件/億台キロ）	【交通状況】 ・国道45号志津川市街地に交通が集中	

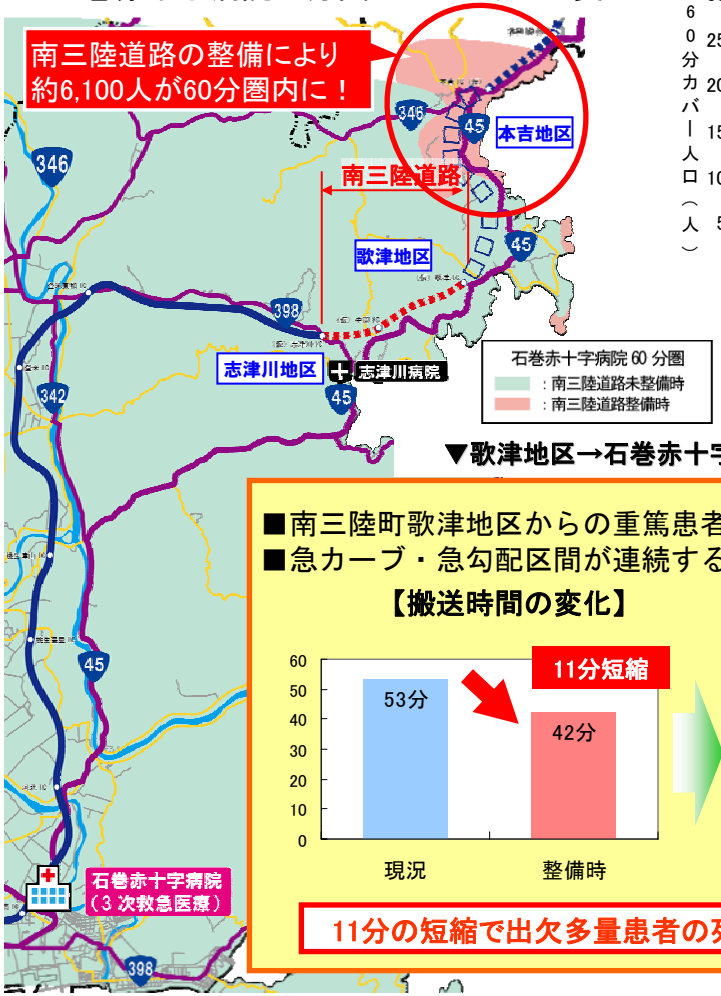
4. 期待される整備効果の例

◆高次医療施設までの搬送時間が短縮し、救急救命活動を支援。
◆三陸沿岸地域の水産物の搬送時間を短縮し、出荷時の輸送効率化・水産物の品質向上が図られ、産業経済の復興に寄与。

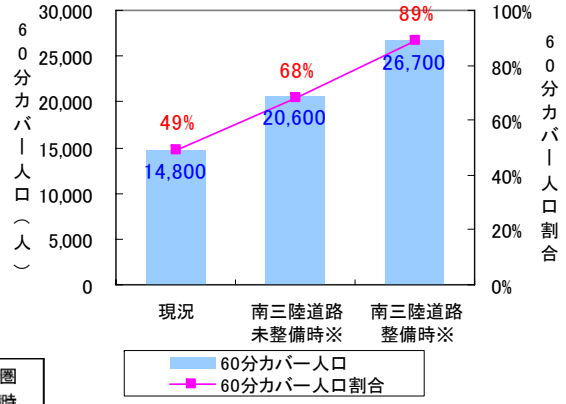
○救急搬送時間の短縮

⇒救助率向上

▼石巻赤十字病院60分圏カバーエリアの変化



▼60分カバー人口の変化
（南三陸町・気仙沼市本吉地区）



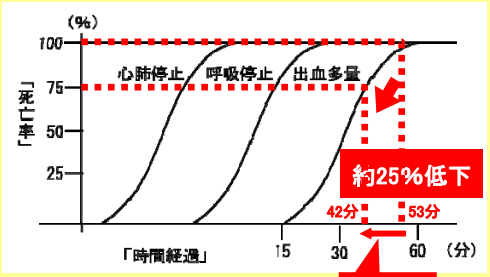
※登米志津川道路は全線供用時

▼歌津地区→石巻赤十字病院への搬送時間変化

■南三陸町歌津地区からの重篤患者を石巻赤十字病院へ搬送
■急カーブ・急勾配区間が連続する国道45号を利用せざるを得ない

【搬送時間の変化】

【多量出血患者の死亡率の変化】

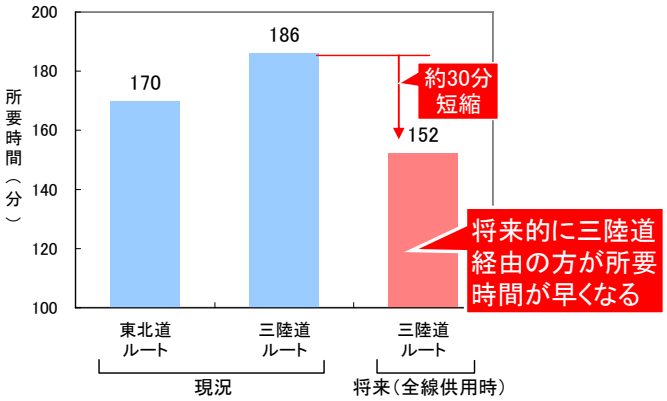


11分の短縮で出欠多量患者の死亡率が約25%減少

○水産物の搬送時間の短縮

⇒出荷時の輸送効率化・品質向上

▼所要時間の比較（仙台～気仙沼間）



※将来の三陸道ルートは事業化済の「登米志津川道路」
「南三陸道路」「本吉気仙沼道路」が全線供用した時を想定
（未事業化区間は国道45号を利用）

水産業の活性化を図るには、より早く目的地へ行けるルートを確保する必要がある



所要時間短縮による鮮度向上

商品価値の向上
さらに遠方へ
出荷が可能に

5. 事業の投資効果

○費用便益比（B／C）

※下表の数値は、基準年（平成23年度）における現在価値換算した金額を記載

計画交通量（平成42年度）　志津川～歌津＝7,700台／日　　現道＝2,500台／日

【全線】

	基本ケース	感度分析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		＋10%	－10%	＋10%	－10%	＋20%	－20%
費用C（現在価値）	***218***	***218***	***218***	***238***	***199***	***217***	***223***
事業費（億円）	196	196	196	216	177	197	199
維持修繕費（億円）	22	22	22	22	22	20	24
便益B（現在価値）	***293***	***323***	***263***	***293***	***293***	***267***	***322***
走行時間短縮便益（億円）	221	246	197	221	221	201	243
走行経費減少便益（億円）	44	48	41	44	44	40	49
交通事故減少便益（億円）	28	30	26	28	28	25	31
費用便益比　B／C	***1.3***	***1.5***	***1.2***	***1.2***	***1.5***	***1.2***	***1.4***

【残時業】

	基本ケース	感度分析					
		交通量変動		事業費変動		事業期間変動	
		＋10%	－10%	＋10%	－10%	＋20%	－20%
費用C（現在価値）	***209***	***209***	***209***	***228***	***190***	***208***	***210***
事業費（億円）	187	187	187	206	168	187	188
維持修繕費（億円）	22	22	22	22	22	21	23
便益B（現在価値）	***293***	***323***	***263***	***293***	***293***	***280***	***307***
走行時間短縮便益（億円）	221	246	197	221	221	211	232
走行経費減少便益（億円）	44	48	41	44	44	42	46
交通事故減少便益（億円）	28	30	26	28	28	27	29
費用便益比　B／C	***1.4***	***1.5***	***1.3***	***1.3***	***1.5***	***1.3***	***1.5***

○純現在価値(ENPV)　　【全線】75億円　【残事業】84億円

○経済的内部収益率(EIRR)　　【全線】5.6%　【残事業】5.9%

○新規事業採択（H20）時の計画交通量・費用便益比

【計画交通量】　志津川～歌津＝12，600台／日　　【費用便益比】　（全体）1．8

6－①. 被災状況と三陸道の整備効果

過去の津波被害を大きく上回るH23.3.11の大津波！で多数の人的・家屋被害

◆南三陸町は、東北地方太平洋沖地震（H23.3.11）以前にも幾度も地震による津波被害に遭い、その教訓を基に、津波浸水区域を予測していた。

◆しかし、東北地方太平洋沖地震（H23.3.11）で発生した大津波は予測をはるかに上回り、中心市街地は壊滅的な被害を受けた。



東北地方太平洋沖地震津波で壊滅的な被害を受けた志津川地区（平成23年3月12日）

出典：河北新報社



チリ地震津波で被災した国道45号（志津川町十日町）（昭和35年）

被災レベルは歴然！

▼対象地域の過去の津波被害履歴

地震名	年号	人的被害	家屋被害
明治三陸地震※	明治29年	441名	175棟
昭和三陸地震※	昭和8年	22名	7棟
チリ地震※	昭和35年	41名	－
東北地方太平洋沖地震（H23.7.5現在）	平成23年	1,206名	3,167棟

※「明治三陸地震」「昭和三陸地震」「チリ地震」は、旧志津川町のみを対象とした数値

出典：南三陸町ホームページ



▲東北地方太平洋沖地震による津波浸水区域と津波浸水予測区域の比較

6－②. 被災状況と三陸道の整備効果

国道45号は津波災害により道路が寸断され地域の孤立

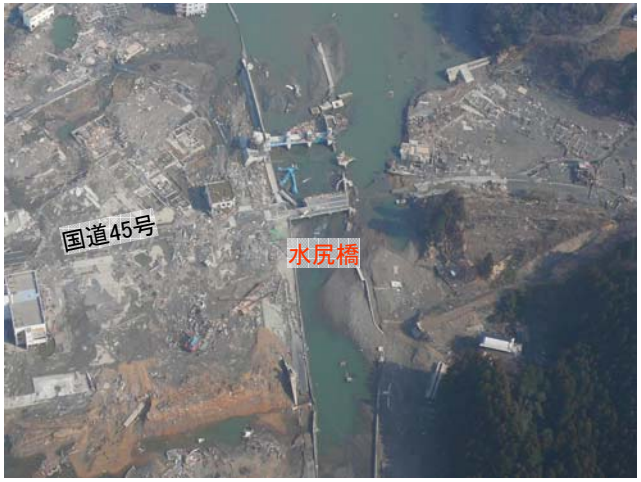
◆国道45号は津波災害により、落橋が各地点で発生し、道路が寸断された。町内の国道45号の約41%（10.2km）が浸水した。
◆国道45号及びその他路線の寸断により、南三陸町及びその近隣地区で約1万人が孤立した。

▼津波浸水エリアと孤立化した集落



※孤立人口はH17国調のメッシュ人口と東日本大震災の津波浸水区域、道路網寸断状況を考慮し算出

▼津波で流された国道45号水尻橋（南三陸町志津川）



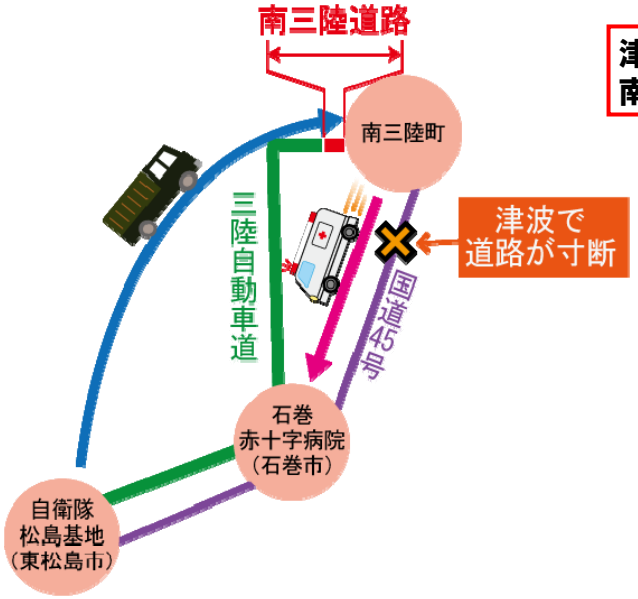
▼津波で流された国道45号歌津大橋（南三陸町歌津）



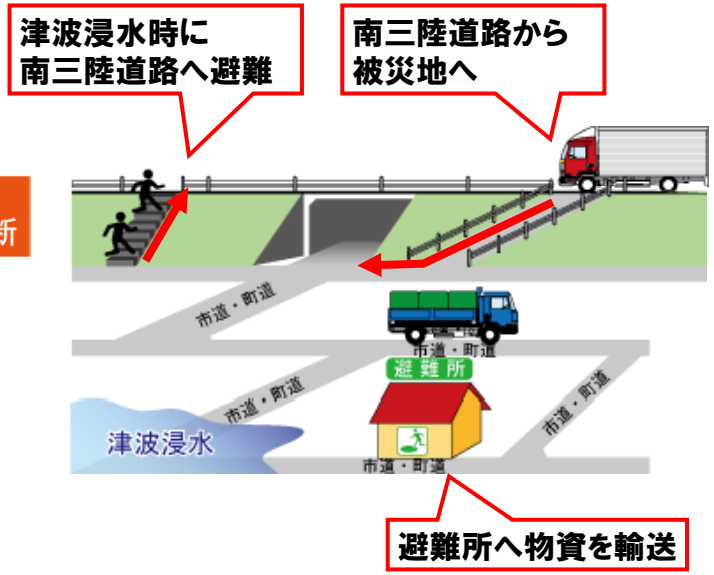
6－③. 被災状況と三陸道の整備効果

◆南三陸道路は、津波浸水区域を回避して災害時のリダンダンシーを確保し、防災上重要な拠点や救急医療の観点から重要な拠点とのアクセス強化が図られ、迅速な復旧・復興を支援することが期待されている。
◆津波浸水時に地域住民の避難場所や防災拠点としての活用、孤立地域の抑制が期待される。

▼リダンダンシーの確保イメージ



▼災害時の孤立回避・救助活動支援イメージ



被災地へのアクセス性が向上し救命救助・復旧活動が迅速に！

震災後、全国から多くの救急隊が現地に入り、三陸縦貫自動車道の救急車退出路を利用し、負傷者の搬送を行った

TOPIC

唐桑道路（H22.12.19供用開始）は地域住民の避難ルートとして大きな役割を果たした





『菅原 気仙沼市長からのメッセージ』

このたびの「東北地方太平洋沖地震」では、昨年12月19日に開通した唐桑道路が地域住民の避難ルートとして大きな役割を果たしたことから、災害時における緊急避難路の確保の観点からも三陸縦貫自動車道の必要性は極めて高いと、あらためて認識したところです。

さらに、これから復興計画を進める気仙沼市においては、まちづくりと地域の骨格をなす三陸縦貫自動車道の整備を一体的に考える必要があります。

つきましては、気仙沼市をはじめとした三陸沿岸地域の復興のため、現在、事業を進められている本吉気仙沼道路等の一日も早い開通を心より念願するとともに、南三陸町・気仙沼市・陸前高田市域における基本計画区間について、速やかに整備計画を決定いただきたく、要望申し上げます。

気仙沼市長
菅原茂

7. 事業の進捗状況について

〇事業進捗状況
・当該事業の用地取得にあたっては、東北地方太平洋沖地震の津波による被災者（避難者、行方不明者等）が多数存在することから、南三陸町の協力の下、避難先の確認、戸籍等の収集を行いながら協議を進めていく。

〇環境影響評価
・評価対象区間については、「環境影響評価法」及び「宮城県環境影響評価条例」の対象事業に該当しないが、任意で環境調査を実施している。
・予測及び環境保全措置の結果、大気質、騒音、振動、低周波音、地形及び地質、日照阻害、動物、植物、生態系、景観、人と自然の触れ合いの活動の場、廃棄物等のいずれもが環境保全目標を満足している。
・工事中に現段階で予測し得なかった環境保全上の問題が生じた場合における原因究明及びその結果を踏まえた措置については、必要に応じ関係機関と協力しつつ実施する。

〇事業採択時より再評価実施までの周辺環境等の変化
・南三陸町は、東北地方太平洋沖地震の津波により甚大な被害を受けた地域あるが、当該事業の目的である「津波浸水区域の回避」、「災害時におけるリダンダンシーの確保」、「広域的な交流・連携の促進」による地域住民の安全安心の確保については、事業採択時より変わるものではない。

8. 供用予定後等今後の事業の見通し

・南三陸道路全線（L=7.2km）について、早期の供用を目指す。

9. コスト縮減や代替案立案等の可能性について

〇新技術の活用によるコスト縮減を図る。
・トンネル内のコンクリート舗装をスリップフォーム工法によるコスト縮減。
・耐候性鋼橋梁の採用による維持管理費のコスト縮減。

地方公共団体等の意見	○宮城県知事の意見 事業の継続実施に異議はありません。 なお，当該道路は今回の震災において、「命の道」として大変重要な役割を果たし、その必要性・重要性が改めて認識されたところですので、より一層の整備促進を求めますとともに、震災に伴う本県の災害関連費用負担が大幅に増加していることから、一層のコスト縮減を図るなど，事業促進に係る費用負担軽減について特段の配慮をお願いします。 また、以下の団体等から南三陸道路の整備促進について要望あり。 ○南三陸町三陸縦貫自動車道整備促進期成同盟会（南三陸町長） ○三陸縦貫自動車道・アクセス道路建設促進期成同盟会（石巻市長、女川町長） ○気仙沼・本吉地方三陸縦貫自動車道事業化促進連絡協議会（気仙沼市長、南三陸町長） ○気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会（南三陸町婦人団体連絡協議会、他12団体） ○三陸沿岸圏商工団体連絡会議（気仙沼商工会議所会頭）
対応方針	原案　事業継続 （理由） 南三陸道路は、津波浸水区域を回避して緊急輸送道路を確保し、第三次医療施設への速達性向上等、地域住民の安全安心の確保を図るものである。 更に、三陸沿岸地域の交流・連携を促進する高規格幹線道路ネットワークを形成するものとして、早期整備の必要性が高い。

資　料　５－２

道路事業　再評価

一般国道４５号　南三陸道路

平成２３年　７月２５日
国土交通省　東北地方整備局

東北地方整備局
企画第17号
平成23年7月21日

土総第２０７号
平成２３年７月２１日

国土交通省東北地方整備局長　殿

宮城県知事　村井　嘉浩

東北地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る意見照会について（回答）

平成２３年７月１２日付け国東整企画第１６号で依頼のありましたこのことについて，下記事業の継続実施に異議はありません。

なお，当該道路は今回の震災において，「命の道」として大変重要な役割を果たし，その必要性・重要性が改めて認識されたところですので，より一層の整備促進を求めますとともに，震災に伴う本県の災害関連費用負担が大幅に増加していることから，一層のコスト縮減を図るなど，事業促進に係る費用負担軽減について特段の配慮をお願いします。

記

1　道路事業
（1）一般国道４５号南三陸道路

担当：土木部土木総務課企画調整班 [redacted]
TEL：022-211-3108　FAX：022-211-3199
[redacted]

様式－２

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
一般国道45号	南三陸道路	Ｌ＝7.2ｋｍ	高規格Ｂ	ＢＰ

計画交通量（台/日）	車線数	事業主体
7,700	2	東北地方整備局

① 費　用

	事　業　費	維持管理費	合　　計
基 準 年	平成２３年度		
単純合計	228億円	65億円	293億円
うち残事業分	218億円	65億円	283億円
基準年における現在価値（Ｃ）	196億円	22億円	218億円
うち残事業分	187億円	22億円	209億円

② 便　益

	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	合　　計
基 準 年	平成２３年度			
供 用 年	平成３０年度			
単年便益（初年便益）	15億円	3億円	2億円	19億円
基準年における現在価値（Ｂ）	221億円	44億円	28億円	293億円
うち残事業分	221億円	44億円	28億円	293億円

③ 結　果

費用便益比（事業全体）	1.3
経済的純現在価値（事業全体）	75億円
経済的内部収益率（事業全体）	5.6%
費用便益比（残事業）	1.4
経済的純現在価値（残事業）	84億円
経済的内部収益率（残事業）	5.9%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析　（残事業を対象）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（Ｂ／Ｃ）
交通量	7,700台/日	±10%	1.3～1.5
事業費	218億円	±10%	1.3～1.5
事業期間	6年	±20%	1.3～1.5

様式－３①

交通状況の変化

事業名:南三陸道路(事業全体：残事業)

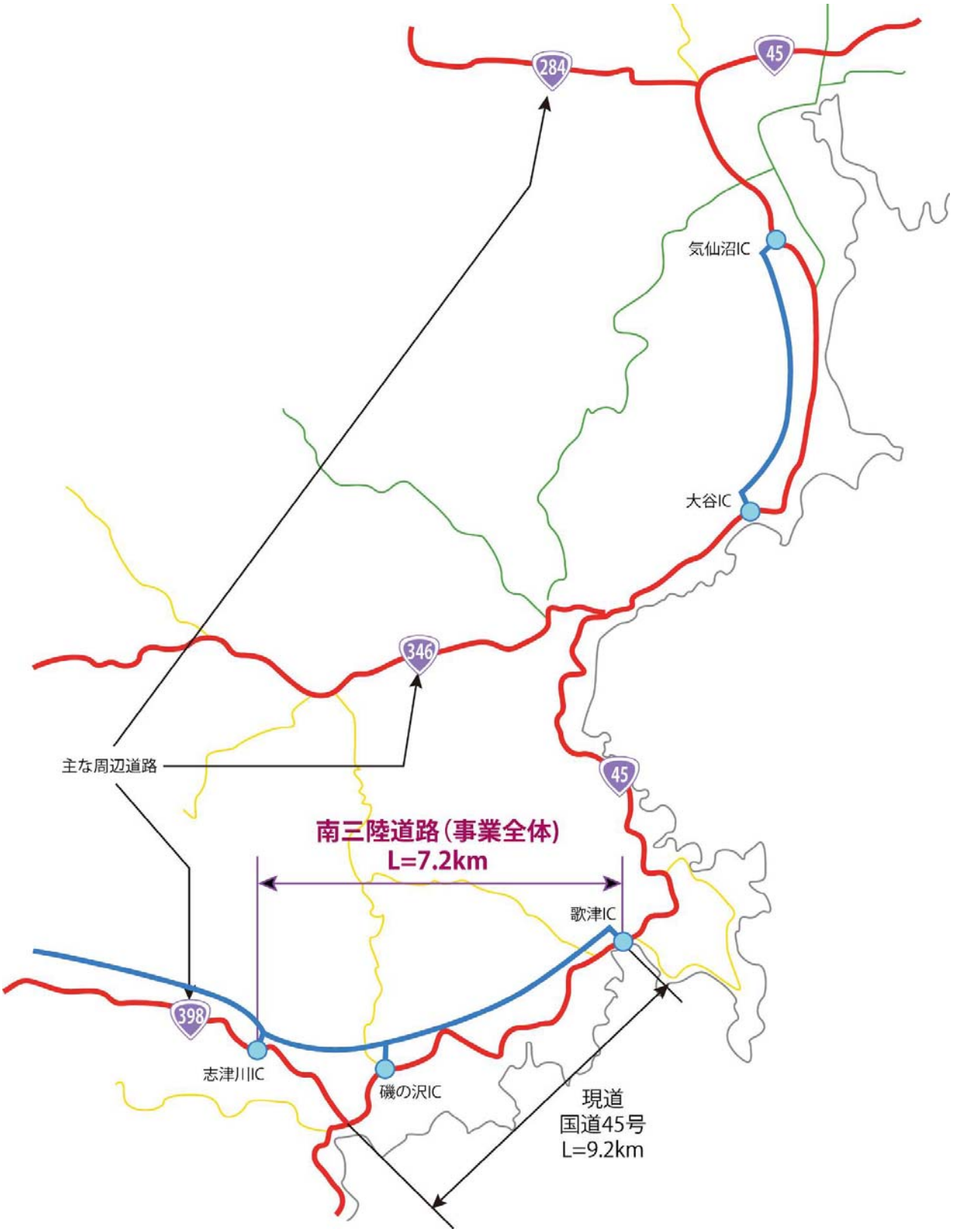
（推計時点　　Ｈ４２年）

				整備なし(A)	整備あり(B)
①新設・改築道路［バイパス等］:7.2km		交通量	[台/日]	0	7,700
		走行時間	[分]	0	6
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	8.17
②主な周辺道路	現道（一般国道45号）:9.2km	交通量	[台/日]	8,300	2,500
		走行時間	[分]	14	12
		走行時間費用	[億円/年]	20.89	5.09
	一般国道２８４号:5.7km	交通量	[台/日]	7,400	7,300
		走行時間	[分]	11	11
		走行時間費用	[億円/年]	13.99	13.72
	一般国道３９８号:7.5km	交通量	[台/日]	4,100	4,000
		走行時間	[分]	16	16
		走行時間費用	[億円/年]	10.40	10.03
	一般国道３４６号:7.6km	交通量	[台/日]	1,500	200
		走行時間	[分]	15	15
		走行時間費用	[億円/年]	4.14	0.54
③その他道路合計:5764.3km		走行時間費用	[億円/年]	17305.63	17304.11

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A － B)
合計:5801.5km	走行時間短縮便益	[億円/年]	17355.06	17341.66	13.40

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

事業名：南三陸道路（事業全体：残事業）



様式－３②

費用便益分析の条件

事業名：南三陸道路(事業全体:残事業)

（2）

項目				チェック欄
算出マニュアル		費用便益分析マニュアル （平成20年11月　国土交通省　道路局　都市・地域整備局）		■
		その他		□
分析の基本的事項		分析対象期間		50年
		社会的割引率		4%
		基準年次		平成23年度
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計		■（平成42年度）
		複数時点での推計		□
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		■
		整備の有無のいずれかのみ推計		□ 有　□ 無
		いずれかのみの推計の場合	いずれかのみの推計とした理由を記載	
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 （三段階推定法）		■ （H17センサス）
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 （四段階推定法）		□
		その他（　　）		□
	開発交通量の考慮	無		■
		有		□
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数)	（　）台ﾄﾘｯﾌﾟ/日
			考慮した理由を記載	
	配分交通量の推計手法	Q－V式を用いた配分		□
		転換率式を用いた配分		□
		Q－V式と転換率式の併用による配分		■
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		□
		簡易手法		□
		簡易手法の採択理由	小規模事業である	□
			山間部海岸部で併行道路が少ない	□
			その他（　　）	
		簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)		
		その他（　　）		□
	速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定		■
		採用理由を記載	交通量推計結果について、交通容量(Qmax)以上の路線、交通容量(Qmin～Qmax)内の路線、等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。	
		最終配分の速度		□
		採用理由を記載		
		その他（　　）		□

事業名：南三陸道路(事業全体:残事業)

（3）

項目				チェック欄
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	面的に考慮	□
			対象路線のみ考慮	□
			採用した休日係数	（　　）%
	災害等による通行止めの影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数	（　　）日
			とり止め交通を考慮する	□
	冬期交通の影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	採用した冬期日数	（　　）日
			冬期の走行速度と交通容量の関係	
	交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定		■
		その他（　　）		□
	車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		■
		独自に設定した値を使用		□
	車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		■
		独自に設定した値を使用		□
	交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮		■
		中央分離帯の有無を考慮しない		□
	走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない		■
		考慮する		□
	その他			

事業名：南三陸道路(事業全体:残事業)

（4）

項目			チェック欄
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用	■
		標準投資パターンを採用	□
		その他（　　）	□
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出	
	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	□
	その他		

4．その他

様式－４

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

採用単価の根拠　一般国道(直轄)		
単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
0.189	7.2	1.36

箇所名：　南三陸道路(事業全体)

年次	年度		割戻率 H23	GDP デフレータ	事業費(億円) 単純価値	事業費(億円) 現在価値	維持管理費(億円) 単純価値	維持管理費(億円) 現在価値
－10年目	H	20	1.1249	91.2	0.21	0.23		
－9年目	H	21	1.0816	90.0	1.03	1.11		
－8年目	H	22	1.0400	90.0	3.24	3.37		
－7年目	H	23	1.0000	90.0	4.73	4.73		
－6年目	H	24	0.9615	90.0	19.78	19.02		
－5年目	H	25	0.9246	90.0	26.93	24.90		
－4年目	H	26	0.8890	90.0	46.29	41.15		
－3年目	H	27	0.8548	90.0	48.67	41.60		
－2年目	H	28	0.8219	90.0	55.24	45.40		
－1年目	H	29	0.7903	90.0	21.43	16.94		
供用開始年次	H	30	0.7599	90.0			1.30	0.99
1年目	H	31	0.7307	90.0			1.30	0.95
2年目	H	32	0.7026	90.0			1.30	0.91
3年目	H	33	0.6756	90.0			1.30	0.88
4年目	H	34	0.6496	90.0			1.30	0.84
5年目	H	35	0.6246	90.0			1.30	0.81
6年目	H	36	0.6006	90.0			1.30	0.78
7年目	H	37	0.5775	90.0			1.30	0.75
8年目	H	38	0.5553	90.0			1.30	0.72
9年目	H	39	0.5339	90.0			1.30	0.69
10年目	H	40	0.5134	90.0			1.30	0.67
11年目	H	41	0.4936	90.0			1.30	0.64
12年目	H	42	0.4746	90.0			1.30	0.62
13年目	H	43	0.4564	90.0			1.30	0.59
14年目	H	44	0.4388	90.0			1.30	0.57
15年目	H	45	0.4220	90.0			1.30	0.55
16年目	H	46	0.4057	90.0			1.30	0.53
17年目	H	47	0.3901	90.0			1.30	0.51
18年目	H	48	0.3751	90.0			1.30	0.49
19年目	H	49	0.3607	90.0			1.30	0.47
20年目	H	50	0.3468	90.0			1.30	0.45
21年目	H	51	0.3335	90.0			1.30	0.43
22年目	H	52	0.3207	90.0			1.30	0.42
23年目	H	53	0.3083	90.0			1.30	0.40
24年目	H	54	0.2965	90.0			1.30	0.39
25年目	H	55	0.2851	90.0			1.30	0.37
26年目	H	56	0.2741	90.0			1.30	0.36
27年目	H	57	0.2636	90.0			1.30	0.34
28年目	H	58	0.2534	90.0			1.30	0.33
29年目	H	59	0.2437	90.0			1.30	0.32
30年目	H	60	0.2343	90.0			1.30	0.30
31年目	H	61	0.2253	90.0			1.30	0.29
32年目	H	62	0.2166	90.0			1.30	0.28
33年目	H	63	0.2083	90.0			1.30	0.27
34年目	H	64	0.2003	90.0			1.30	0.26
35年目	H	65	0.1926	90.0			1.30	0.25
36年目	H	66	0.1852	90.0			1.30	0.24
37年目	H	67	0.1780	90.0			1.30	0.23
38年目	H	68	0.1712	90.0			1.30	0.22
39年目	H	69	0.1646	90.0			1.30	0.21
40年目	H	70	0.1583	90.0			1.30	0.21
41年目	H	71	0.1522	90.0			1.30	0.20
42年目	H	72	0.1463	90.0			1.30	0.19
43年目	H	73	0.1407	90.0			1.30	0.18
44年目	H	74	0.1353	90.0			1.30	0.18
45年目	H	75	0.1301	90.0			1.30	0.17
46年目	H	76	0.1251	90.0			1.30	0.16
47年目	H	77	0.1203	90.0			1.30	0.16
48年目	H	78	0.1157	90.0			1.30	0.15
49年目	H	79	0.1112	90.0	−18.43	−2.05	1.30	0.14
合　計					209.12	196.41	65.00	22.07

単純事業費計		227.55	65.00

注1）事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、
必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
（投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として
評価を実施。）

注2）評価対象期間最終年において、用地残存価値（割引後の用地費）を控除している。

様式－４

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

採用単価の根拠　一般国道(直轄)

単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
0.189	7.2	1.36

箇所名:　南三陸道路(残事業)

年次	年度		割戻率 H23	GDP デフレータ	事業費(億円) 単純価値	事業費(億円) 現在価値	維持管理費(億円) 単純価値	維持管理費(億円) 現在価値
－6年目	H	24	0.9615	90.0	19.78	19.02		
－5年目	H	25	0.9246	90.0	26.93	24.90		
－4年目	H	26	0.8890	90.0	46.29	41.15		
－3年目	H	27	0.8548	90.0	48.67	41.60		
－2年目	H	28	0.8219	90.0	55.24	45.40		
－1年目	H	29	0.7903	90.0	21.43	16.94		
供用開始年次	H	30	0.7599	90.0			1.30	0.99
1年目	H	31	0.7307	90.0			1.30	0.95
2年目	H	32	0.7026	90.0			1.30	0.91
3年目	H	33	0.6756	90.0			1.30	0.88
4年目	H	34	0.6496	90.0			1.30	0.84
5年目	H	35	0.6246	90.0			1.30	0.81
6年目	H	36	0.6006	90.0			1.30	0.78
7年目	H	37	0.5775	90.0			1.30	0.75
8年目	H	38	0.5553	90.0			1.30	0.72
9年目	H	39	0.5339	90.0			1.30	0.69
10年目	H	40	0.5134	90.0			1.30	0.67
11年目	H	41	0.4936	90.0			1.30	0.64
12年目	H	42	0.4746	90.0			1.30	0.62
13年目	H	43	0.4564	90.0			1.30	0.59
14年目	H	44	0.4388	90.0			1.30	0.57
15年目	H	45	0.4220	90.0			1.30	0.55
16年目	H	46	0.4057	90.0			1.30	0.53
17年目	H	47	0.3901	90.0			1.30	0.51
18年目	H	48	0.3751	90.0			1.30	0.49
19年目	H	49	0.3607	90.0			1.30	0.47
20年目	H	50	0.3468	90.0			1.30	0.45
21年目	H	51	0.3335	90.0			1.30	0.43
22年目	H	52	0.3207	90.0			1.30	0.42
23年目	H	53	0.3083	90.0			1.30	0.40
24年目	H	54	0.2965	90.0			1.30	0.39
25年目	H	55	0.2851	90.0			1.30	0.37
26年目	H	56	0.2741	90.0			1.30	0.36
27年目	H	57	0.2636	90.0			1.30	0.34
28年目	H	58	0.2534	90.0			1.30	0.33
29年目	H	59	0.2437	90.0			1.30	0.32
30年目	H	60	0.2343	90.0			1.30	0.30
31年目	H	61	0.2253	90.0			1.30	0.29
32年目	H	62	0.2166	90.0			1.30	0.28
33年目	H	63	0.2083	90.0			1.30	0.27
34年目	H	64	0.2003	90.0			1.30	0.26
35年目	H	65	0.1926	90.0			1.30	0.25
36年目	H	66	0.1852	90.0			1.30	0.24
37年目	H	67	0.1780	90.0			1.30	0.23
38年目	H	68	0.1712	90.0			1.30	0.22
39年目	H	69	0.1646	90.0			1.30	0.21
40年目	H	70	0.1583	90.0			1.30	0.21
41年目	H	71	0.1522	90.0			1.30	0.20
42年目	H	72	0.1463	90.0			1.30	0.19
43年目	H	73	0.1407	90.0			1.30	0.18
44年目	H	74	0.1353	90.0			1.30	0.18
45年目	H	75	0.1301	90.0			1.30	0.17
46年目	H	76	0.1251	90.0			1.30	0.16
47年目	H	77	0.1203	90.0			1.30	0.16
48年目	H	78	0.1157	90.0			1.30	0.15
49年目	H	79	0.1112	90.0	−18.43	−2.05	1.30	0.14
合　計					199.91	186.96	65.00	22.07

単純事業費計		218.34	65.00

注1）事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、
必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
（投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として
評価を実施。）

注2）評価対象期間最終年において、用地残存価値（割引後の用地費）を控除している。

様式－５

便益の現在価値算定表

箇所名：南三陸道路　　（全体、残事業）

年次	年度（基準年）H23	総走行台キロの年次別伸び率（南東北ブロック）				割戻率 4% (A)	GDP デフレータ	走行時間短縮便益(億円)					走行経費減少便益(億円)					事故減少便益(億円)		合　計（億円）	
		乗用車類	小型貨物	普通貨物	全　車			乗用車類	小型貨物	普通貨物	①　計	現在価値 ①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	②　計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 ③×(A)	費用合計 (①～③)	現在価値 割引率4%
供用開始年次	H 30	0.99544	0.98766	0.98681	0.99303	0.7599	90.0	6.74	0.96	7.06	14.76	11.22	1.80	0.21	0.91	2.92	2.22	1.81	1.38	19.49	14.82
1年目	H 31	0.99541	0.98751	0.98663	0.99298	0.7307	90.0	6.71	0.95	6.97	14.63	10.69	1.79	0.21	0.90	2.90	2.12	1.80	1.32	19.33	14.13
2年目	H 32	0.99539	0.98735	0.98645	0.99293	0.7026	90.0	6.68	0.94	6.88	14.50	10.19	1.78	0.21	0.89	2.88	2.02	1.79	1.26	19.17	13.47
3年目	H 33	0.99657	0.99110	0.98859	0.99459	0.6756	90.0	6.66	0.93	6.80	14.39	9.72	1.77	0.21	0.88	2.86	1.93	1.78	1.20	19.03	12.85
4年目	H 34	0.99656	0.99102	0.98845	0.99456	0.6496	90.0	6.64	0.92	6.72	14.28	9.28	1.76	0.21	0.87	2.84	1.84	1.77	1.15	18.89	12.27
5年目	H 35	0.99655	0.99094	0.98832	0.99453	0.6246	90.0	6.62	0.91	6.64	14.17	8.85	1.75	0.21	0.86	2.82	1.76	1.76	1.10	18.75	11.71
6年目	H 36	0.99654	0.99085	0.98818	0.99450	0.6006	90.0	6.60	0.90	6.56	14.06	8.44	1.74	0.21	0.85	2.80	1.68	1.75	1.05	18.61	11.17
7年目	H 37	0.99652	0.99077	0.98804	0.99447	0.5775	90.0	6.58	0.89	6.48	13.95	8.06	1.73	0.21	0.84	2.78	1.61	1.74	1.00	18.47	10.67
8年目	H 38	0.99651	0.99068	0.98789	0.99444	0.5553	90.0	6.56	0.88	6.40	13.84	7.69	1.72	0.21	0.83	2.76	1.53	1.73	0.96	18.33	10.18
9年目	H 39	0.99650	0.99059	0.98775	0.99441	0.5339	90.0	6.54	0.87	6.32	13.73	7.33	1.71	0.21	0.82	2.74	1.46	1.72	0.92	18.19	9.71
10年目	H 40	0.99649	0.99050	0.98759	0.99438	0.5134	90.0	6.52	0.86	6.24	13.62	6.99	1.70	0.21	0.81	2.72	1.40	1.71	0.88	18.05	9.27
11年目	H 41	0.99647	0.99041	0.98744	0.99434	0.4936	90.0	6.50	0.85	6.16	13.51	6.67	1.69	0.21	0.80	2.70	1.33	1.70	0.84	17.91	8.84
12年目	H 42	0.99646	0.99032	0.98728	0.99431	0.4746	90.0	6.48	0.84	6.08	13.40	6.36	1.68	0.21	0.79	2.68	1.27	1.69	0.80	17.77	8.43
13年目	H 43	0.99161	1.00115	0.99346	0.99298	0.4564	90.0	6.43	0.84	6.04	13.31	6.07	1.67	0.21	0.78	2.66	1.21	1.68	0.77	17.65	8.05
14年目	H 44	0.99154	1.00115	0.99342	0.99293	0.4388	90.0	6.38	0.84	6.00	13.22	5.80	1.66	0.21	0.77	2.64	1.16	1.67	0.73	17.53	7.69
15年目	H 45	0.99147	1.00115	0.99338	0.99288	0.4220	90.0	6.33	0.84	5.96	13.13	5.54	1.65	0.21	0.76	2.62	1.11	1.66	0.70	17.41	7.35
16年目	H 46	0.99139	1.00115	0.99333	0.99283	0.4057	90.0	6.28	0.84	5.92	13.04	5.29	1.64	0.21	0.75	2.60	1.05	1.65	0.67	17.29	7.01
17年目	H 47	0.99132	1.00115	0.99329	0.99278	0.3901	90.0	6.23	0.84	5.88	12.95	5.05	1.63	0.21	0.74	2.58	1.01	1.64	0.64	17.17	6.70
18年目	H 48	0.99124	1.00115	0.99324	0.99273	0.3751	90.0	6.18	0.84	5.84	12.86	4.82	1.62	0.21	0.73	2.56	0.96	1.63	0.61	17.05	6.39
19年目	H 49	0.99117	1.00115	0.99320	0.99268	0.3607	90.0	6.13	0.84	5.80	12.77	4.61	1.61	0.21	0.73	2.55	0.92	1.62	0.58	16.94	6.11
20年目	H 50	0.99109	1.00115	0.99315	0.99262	0.3468	90.0	6.08	0.84	5.76	12.68	4.40	1.60	0.21	0.72	2.53	0.88	1.61	0.56	16.82	5.84
21年目	H 51	0.99101	1.00114	0.99310	0.99257	0.3335	90.0	6.03	0.84	5.72	12.59	4.20	1.59	0.21	0.72	2.52	0.84	1.60	0.53	16.71	5.57
22年目	H 52	0.99093	1.00114	0.99305	0.99251	0.3207	90.0	5.98	0.84	5.68	12.50	4.01	1.58	0.21	0.71	2.50	0.80	1.59	0.51	16.59	5.32
23年目	H 53	0.99084	1.00114	0.99301	0.99246	0.3083	90.0	5.93	0.84	5.64	12.41	3.83	1.57	0.21	0.71	2.49	0.77	1.58	0.49	16.48	5.09
24年目	H 54	0.99076	1.00114	0.99296	0.99240	0.2965	90.0	5.88	0.84	5.60	12.32	3.65	1.56	0.21	0.71	2.48	0.74	1.57	0.47	16.37	4.86
25年目	H 55	0.99067	1.00114	0.99291	0.99234	0.2851	90.0	5.83	0.84	5.56	12.23	3.49	1.55	0.21	0.70	2.46	0.70	1.56	0.44	16.25	4.63
26年目	H 56	0.99058	1.00114	0.99286	0.99228	0.2741	90.0	5.78	0.84	5.52	12.14	3.33	1.54	0.21	0.70	2.45	0.67	1.55	0.42	16.14	4.42
27年目	H 57	0.99049	1.00114	0.99280	0.99222	0.2636	90.0	5.73	0.84	5.48	12.05	3.18	1.53	0.21	0.69	2.43	0.64	1.54	0.41	16.02	4.23
28年目	H 58	0.99040	1.00113	0.99275	0.99216	0.2534	90.0	5.67	0.84	5.44	11.95	3.03	1.52	0.21	0.68	2.41	0.61	1.53	0.39	15.89	4.03
29年目	H 59	0.99031	1.00113	0.99270	0.99210	0.2437	90.0	5.62	0.84	5.40	11.86	2.89	1.51	0.21	0.68	2.40	0.58	1.52	0.37	15.78	3.84
30年目	H 60	0.99022	1.00113	0.99265	0.99203	0.2343	90.0	5.57	0.84	5.36	11.77	2.76	1.50	0.21	0.68	2.39	0.56	1.51	0.35	15.67	3.67
31年目	H 61	0.99012	1.00113	0.99259	0.99197	0.2253	90.0	5.51	0.84	5.32	11.67	2.63	1.49	0.21	0.67	2.37	0.53	1.50	0.34	15.54	3.50
32年目	H 62	0.99002	1.00113	0.99254	0.99191	0.2166	90.0	5.46	0.84	5.28	11.58	2.51	1.48	0.21	0.67	2.36	0.51	1.49	0.32	15.43	3.34
33年目	H 63	0.98992	1.00113	0.99248	0.99184	0.2083	90.0	5.40	0.84	5.24	11.48	2.39	1.47	0.21	0.66	2.34	0.49	1.48	0.31	15.30	3.19
34年目	H 64	0.98982	1.00113	0.99242	0.99177	0.2003	90.0	5.35	0.84	5.20	11.39	2.28	1.46	0.21	0.65	2.32	0.46	1.47	0.29	15.18	3.03
35年目	H 65	0.98971	1.00113	0.99237	0.99170	0.1926	90.0	5.29	0.84	5.16	11.29	2.17	1.44	0.21	0.65	2.30	0.44	1.46	0.28	15.05	2.89
36年目	H 66	0.98961	1.00112	0.99231	0.99163	0.1852	90.0	5.24	0.84	5.12	11.20	2.07	1.43	0.21	0.65	2.29	0.42	1.45	0.27	14.94	2.76
37年目	H 67	0.98950	1.00112	0.99225	0.99156	0.1780	90.0	5.18	0.84	5.08	11.10	1.98	1.41	0.21	0.64	2.26	0.40	1.44	0.26	14.80	2.64
38年目	H 68	0.98938	1.00112	0.99219	0.99149	0.1712	90.0	5.12	0.84	5.04	11.00	1.88	1.40	0.21	0.64	2.25	0.39	1.43	0.24	14.68	2.51
39年目	H 69	0.98927	1.00112	0.99213	0.99142	0.1646	90.0	5.07	0.84	5.00	10.91	1.80	1.38	0.21	0.63	2.22	0.37	1.42	0.23	14.55	2.40
40年目	H 70	0.98915	1.00112	0.99206	0.99134	0.1583	90.0	5.01	0.84	4.96	10.81	1.71	1.37	0.21	0.62	2.20	0.35	1.41	0.22	14.42	2.28
41年目	H 71	0.98904	1.00112	0.99200	0.99127	0.1522	90.0	4.96	0.84	4.92	10.72	1.63	1.35	0.21	0.62	2.18	0.33	1.40	0.21	14.30	2.17
42年目	H 72	0.98891	1.00112	0.99193	0.99119	0.1463	90.0	4.90	0.84	4.88	10.62	1.55	1.34	0.21	0.61	2.16	0.32	1.39	0.20	14.17	2.07
43年目	H 73	0.98879	1.00112	0.99187	0.99111	0.1407	90.0	4.85	0.84	4.84	10.53	1.48	1.32	0.21	0.61	2.14	0.30	1.38	0.19	14.05	1.97
44年目	H 74	0.98866	1.00111	0.99180	0.99103	0.1353	90.0	4.80	0.84	4.80	10.44	1.41	1.31	0.21	0.60	2.12	0.29	1.37	0.19	13.93	1.89
45年目	H 75	0.98853	1.00111	0.99173	0.99095	0.1301	90.0	4.74	0.84	4.76	10.34	1.35	1.29	0.21	0.60	2.10	0.27	1.36	0.18	13.80	1.80
46年目	H 76	0.98840	1.00111	0.99167	0.99087	0.1251	90.0	4.69	0.84	4.72	10.25	1.28	1.28	0.21	0.60	2.09	0.26	1.35	0.17	13.69	1.71
47年目	H 77	0.98826	1.00111	0.99160	0.99079	0.1203	90.0	4.63	0.84	4.68	10.15	1.22	1.26	0.21	0.59	2.06	0.25	1.34	0.16	13.55	1.63
48年目	H 78	0.98812	1.00111	0.99152	0.99070	0.1157	90.0	4.57	0.84	4.64	10.05	1.16	1.25	0.21	0.58	2.04	0.24	1.33	0.15	13.42	1.55
49年目	H 79	0.98798	1.00111	0.99145	0.99061	0.1112	90.0	4.52	0.84	4.60	9.96	1.11	1.23	0.21	0.58	2.02	0.22	1.32	0.15	13.30	1.48
合　計								289.18	42.78	282.15	614.11	221.05	77.11	10.50	35.88	123.49	44.22	78.25	27.86	815.85	293.13

様式－1（内訳表）

路線名	箇所名	車線数	延長
三陸縦貫自動車道	一般国道45号　南三陸道路	2	7.2km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額（百万円）	備考
①工事費					18,341	
	改良費				8,931	
		土工	m3	6,206,000	5,230	切土（2,979,000m3）、盛土（3,227,000m3）
		法面工	㎡	458,000	1,998	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	40	
		管渠工	m	1,160	107	
		函渠工	m	745	1,390	
		排水工	m	6,349	151	
		雑工	式	1	16	機能補償道路等
	橋梁費				2,539	
		100m以上	m	269	1,739	2橋
		100m未満	m	129	801	3橋
	トンネル費				3,821	
		NATM	m	1,216	3,821	6本
		シールド	m			
	IC・JCT費				1,542	
		IC	箇所	3	1,542	ダイヤモンド型（3）
		JCT	箇所			
	舗装費				908	
		車道舗装	㎡	85,690	908	
		歩道舗装	㎡			
	付帯施設費				600	
		交通管理施設工	式	1	600	防護柵工等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					2,070	
	用地費		㎡	319,395	1,843	
		宅地	㎡	20,895	432	
		田畑	㎡	89,550	619	
		山林・原野	㎡	208,950	792	
		その他	㎡			
	補償費		式	1	227	
③間接経費			式	1	3,389	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費					23,800	

【単価等について】

〇工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

〇用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

様式－1（内訳表）

路線名	箇所名	車線数	延長
三陸縦貫自動車道	一般国道45号　南三陸道路	2	7.2km

■残事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額（百万円）	備考
①工事費					18,341	
	改良費				8,931	
		土工	m3	6,206,000	5,230	切土（2,979,000m3）、盛土（3,227,000m3）
		法面工	㎡	458,000	1,998	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	40	
		管渠工	m	1,160	107	
		函渠工	m	745	1,390	
		排水工	m	6,349	151	
		雑工	式	1	16	機能補償道路等
	橋梁費				2,539	
		100m以上	m	269	1,739	2橋
		100m未満	m	129	801	3橋
	トンネル費				3,821	
		NATM	m	1,216	3,821	6本
		シールド	m			
	IC・JCT費				1,542	
		IC	箇所	3	1,542	ダイヤモンド型（3）
		JCT	箇所			
	舗装費				908	
		車道舗装	㎡	85,690	908	
		歩道舗装	㎡			
	付帯施設費				600	
		交通管理施設工	式	1	600	防護柵工等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1,910	
	用地費		㎡	285,695	1,704	
		宅地	㎡	20,395	422	
		田畑	㎡	88,550	612	
		山林・原野	㎡	176,750	670	
		その他	㎡			
	補償費		式	1	207	
③間接経費			式	1	2,589	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費					22,840	

【単価等について】

〇工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

〇用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道45号	南三陸道路	2	7.2km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 （百万円/年）	備考
維持費	km	7.2	38	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	98	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			136	

【単価等について】

〇維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。